

1 所在地

鹿屋市串良町細山田4938番地

2 分掌事務

「地域の特殊性を生かした農業試験研究及び調査」(県行政組織規則)

- ・火山噴出物(クロボクアカホヤシラスなど)からなる台地
- ・広大な畑地帯(県耕地面積約120千haのうち68%82千haが畑)
- ・畑地かんがい営農, 畜産地帯, 食品製造業の集積
- ・露地野菜, ばれいしょ, サツマイモの加工業務向け農産物

3 沿革

- | | |
|-------|-------------------------|
| 大正 9年 | 鹿児島県立土地利用研究地として創立 |
| 昭和39年 | 鹿屋支場附属農業機械化実験農場を創設(細山田) |
| 〃 47年 | 鹿児島県農業試験場大隅支場と改称し現在地に移転 |
| 〃 48年 | 本館新築落成 |
| 平成15年 | 農業機械研修部門を鹿児島県立農業大学校に移管 |
| 〃 18年 | 農業開発総合センター発足 |

4 組織及び職員数

- ◇支場長 1名 (研究職 1名)
- ◇次長兼総務課長 1名 (事務職 1名)
- ◇総務係 2名 (事務職 2名)
- ◇園芸作物研究室 14名 (研究職 6名)(労務職 7名)(技術補助員1名)
- ◇環境研究室 5名 (研究職 2名)(労務職 3名)
- ◇農機研究室 6名 (研究職 3名)(労務職 3名)
- ◆合計 28名 (事務職 3名)(研究職 12名)(労務職 13名)(技術補助員1名)(補助事務員1名,補助作業員 22名)

5 施設概要

- ◆敷地面積 309,280㎡
- ・建物面積 8,629㎡ (本館1棟, 機械格納庫等4棟, 調査室等5棟, その他34棟)
- ・ほ場面積 240,816 ㎡
- ・施設面積 1,124㎡(ガラス室7棟ほか)



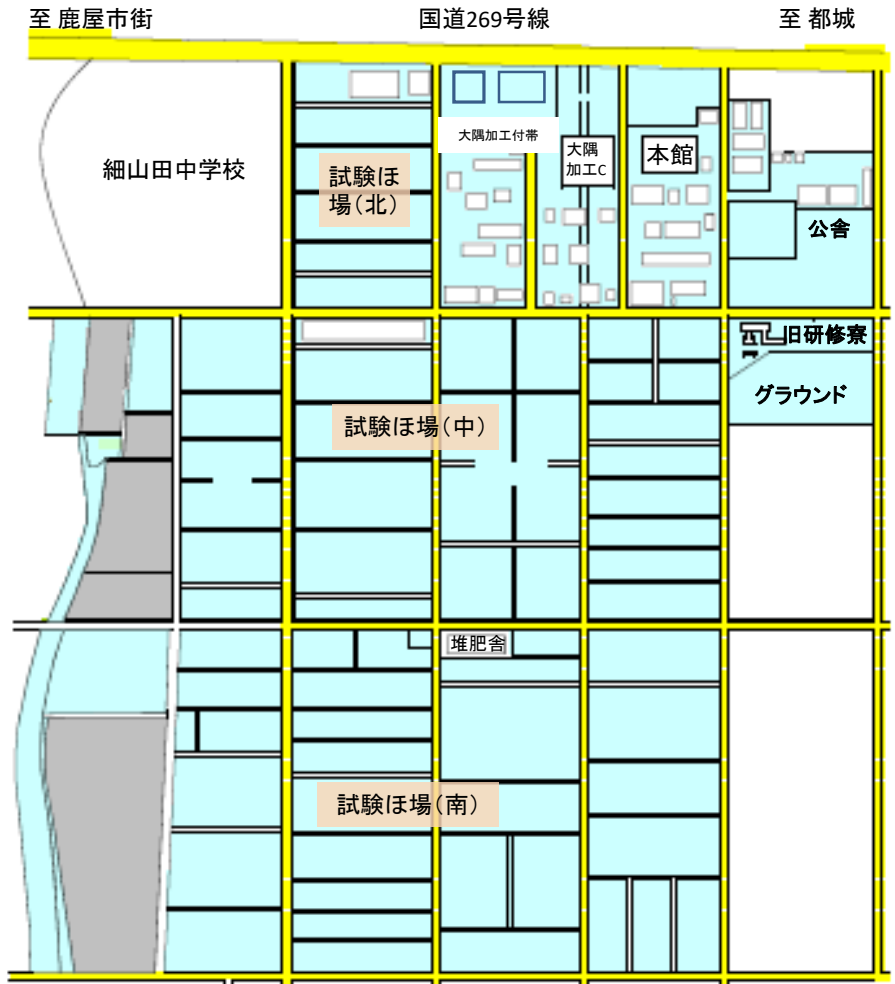
本館



農機格納庫



野菜試験ほ場



6 主な研究内容

- ◇ 生産力・経営力を強化するための研究
 - ・バレイショの新品種育成, 原々種生産
 - ・主要畑作物, 野菜の品種選定試験
 - ・畑作物, 露地野菜の機械化生産システム技術の確立
- ◇ スマート農業の実現に向けた次世代農業技術の開発
 - ・次世代型, 高機能農業機械による高度作業技術の確立
 - ・大規模露地野菜経営体のためのIoTによる畑かん高度利用技術開発
- ◇ 県産農畜産物の高付加価値化による競争力強化を図るための研究
 - ・加工業務用野菜の生産技術確立
 - ・サツマイモ・バレイショの用途別高品質・安定生産技術の確立
 - ・露地野菜の高品質生産安定技術確立と新作型の開発
- ◇ 持続可能な農業と地域資源の活用に対応した研究
 - ・気象変動等の影響を緩和する園芸品目生産技術の開発
 - ・持続性の高い有機農業技術体系の確立
 - ・家畜ふん堆肥など有機物の有効利用技術, 安心・安全な施用技術の確立
 - ・畑作物害虫のIPM技術及び露地野菜等の体系防除技術の確立

7 これまでの成果等



カボチャのペーパーポット苗による機械移植(省力化)



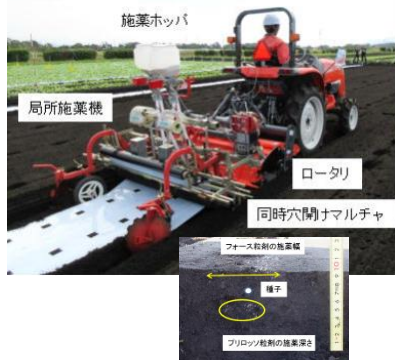
良食味の青果用「べにはるか」

多収で病害に強い
でん粉原料用品種「こないしん」

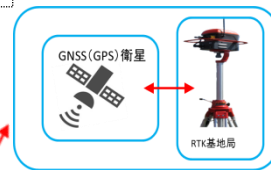


大麦発酵濃縮液を利用したジャガイモそうか病発生リスク低減技術

普及が進んでいる高糖度さつまいも品種と農家・でん粉工場ともに期待が高い新しい品種



ダイコンのキスジノミハムシ防除に役立つ二層局所施薬機(効果的な施薬で被害を軽減)



スマート農機を活用した各種作業システム(各種作業の自動化, ドローン活用法等)